



# かどや通信

第21号

発行日：平成29年7月

発行：かどや保存会

発行責任者：清水 久行／編集：廣野 克子

## 新宿ジャズに大歓声！ 今年もかどやでミニライブ

今や初夏の鳥羽には欠かせないイベントとなった「新宿トラッドジャズフェスティバル イン鳥羽」が七月二日十八時から鳥羽市民文化会館大ホールで開催された。

同コンサートは今回で十一回目を数えるが、三年前からは当日の昼過ぎに、かどやでミニライブが開かれている。

一回目は、本番の出演者十八名中八名が参加したが、昨年は二十四名中十九名、今年も二十名中十六名がかどやで演奏してくれた。

新宿トラッドジャズフェスティバルは、東京・新宿三丁目界隈の居



酒屋のオーナー達が「山下洋輔（ジャズピアニスト）や坂田明（ジャズサクソフォン奏者）など多くの名プレイヤー

を輩出した新宿でジャズのイベントを」と声をあげ、七年前から始まった。毎年、春と秋に行われており、ライ



ブハウスやバ、居酒屋、路上等でプロやセミプロなど百組を超えるミュージシャン

がニューオリンズ・ジャズやデキシーランド・ジャズ等を披露する一大イベントになっている。

鳥羽市在住の鈴木さんは、同イベントの提唱者の一人で現在もプロデューサー（元ジャズプレイヤー）としてイベントを仕切っている方と学生時代からの友人だったことから鳥羽でのコンサートが実現したもので、鳥羽で演奏してくれる皆さんは同イベントの常連なのである。そんな一流プレイヤーの演奏が、かどやでは目の前で聴けるのだから、観客にとってはたまらないひと



時だ。手拍子や歓声で大いに盛り上がり、予定時間を大幅に延長し、時に優しく、時に迫力溢れる名演奏が観客を魅了した。夜の本番も

素晴らしい演奏の連続で、会場は終始弾けんばかりの大喝采に包まれていた。

興味深かったのは、かどやでの演奏は、どこかゆったりとした午後の雰囲気、大ホールでは正装した夜の雰囲気、大ホールでは正装したことだ。昼夜両方を聴かれた方は、環境によ

って同じプレイヤーでも演奏が異なる、そんな楽しさも味わえない。



## 志摩に魅せられた二人展

海の美しさに魅せられた志摩市在住の画家・瀧勇さんと泰子さんご夫妻の絵画展が、五月二十七日から六月十八日まで開催された。

大阪府出身で画家志望だった二人は「波切を知らねば画家でない」とまで言われていた画家のメッカ・波切を独身時代から訪れていた。結婚後も、その美しさに魅せられ度々志摩に足を運び作品を制作していたが、六年前に大王町船越に移住し、現在も精力的に創作活動を続けている。

今年四月には、大王美術ギャラリーで五十年間に亘って描きためた作品展を行ったが、かどやでは最近描かれたものを中心に海女や朝日・夕日等の油絵三十点と、勇さんが鳥羽を描いたペン画十点が展示された。

また、泰子さんは茶道の石州流教授で、華道の当麻流師範でもあることから現在の住居には



展示期間中に勇さんが描いたかどや

茶室を設け、泰子さんが茶道用の茶碗や菓子皿等の陶器を焼き、勇さんが柄杓や茶杓等の木工細工も作

っており、それらの一部も展示された。

勇さんは1993年に国際的権威のあるフランスのル・サロン展に入選し、泰子さんも2004年に入選したのをはじめ、二人とも国内の公募展でも入選受賞を果たしている。

二人は今もほぼ毎日絵筆を握るが、波切を中心に観光ガイドも務めている。勇さんは「絵を描いているとその場所の歴史的背景にも興味湧き、絵に深み加わるように、歴史の勉強も楽しみです」と言う。

泰子さんが描く海女の絵は高い評価を得ているが、初めて海女を見たのは賢島のマリナランドで魚に餌付をしていた時とのこと。動きが優雅で、その感動が海女を描く原点になっている。

## 生活感溢れる海女の美 彫刻と写真の二人展

「彫刻と写真で見る『海女』の美」と題した二人展が、七月十日から八月六日まで開催されている。

彫刻は志摩市在住の山川芳洋さんの作品で、力強い木彫りの海女像は逞しさと優しさにあふれている。元県職員 of 山川さんは、平成四年に富山県井波町に旅行した際、欄間職人の木彫に感動し、彫刻を始めた。最初は、小さな海女から彫り始め、次第に大きな作品に挑戦していった。伊勢市展、三重県展、日本彫刻展等で入選を重ね、平成二十三年からは連続四回日展でも入選を果たしている。

山川さんは「海女漁は大変厳しい仕事ですが、皆さん健康で朗らか、一家の柱として頼りがいのある存在です。そんな魅力溢れる海女さんたちを、これからも彫り続けていきたい」と話す。

写真は、元教員で志摩市在住の泊正徳さんの作品で、現在も伊勢志摩経済新聞(インターネット配信)の専属カメラマンとして活動中だ。十年前から志摩の魅力を一々でも多くの

人に知ってもらいたいとカメラを手にし、フェイスブックに海女さんや志摩の風景等をアップしてきたのがカメラマンとしての原点だ。

「海女さんの魅力は、多くの経験や厳しい海女漁を逞しく潜り抜けてきた人のみが持つ深みのある美しさが顔や姿勢等に表れていること。何気ない仕草にも心を動かされることがあります」と言う。今回は、かどやの雰囲気に合わせて全てモノクロ写真を展示。力強く生きる海女の魅力が存分に伝わる作品が並ぶ。

彫刻も写真も日々の生活に根差した存在感溢れる作品ばかりで、海女の魅力を余すところなく表現した作品群が来場者を圧倒している。





## 明治・大正の音色が響く 長尾オルガンコンサート

「長尾オルガン クラシックコンサートⅢ」が六月十八日に開催された。今回もオルガン奏者として六十年以上のキャリアを持つ京都市在住の大森幹子さんにお越しいただき、クラシックを中心に、オルガンの魅力を存分に奏でていただいた。



今回は、明治三十年代に製造された長尾オルガンに加え、大正十年代に造られた西川オルガンと、明治末期から大正初期と思われる銀座山野オルガンの三台を使い、音色の違い等も聴き比べていただく贅沢なコンサートとなった。

西川オルガンは、約十年前に鳥羽市在住の有志から鳥羽長尾オルガン協会に寄贈されていたが、昨年十一月によく修復が叶ったものだ。長尾オルガンの鍵盤が二十九鍵なの



に対し、西川オルガンは四十九鍵と一回り大きく、長尾オルガンの明るく華やかな音色に比べ、重厚な音が特長だ。

銀座山野オルガンも、西川オルガンを担当した調律師の和久井さんが手掛けて、今年修復されたばかりだ。リードという部品が英国製で、響きが素晴らしいと和久井さんご自身のオルガンである。

明治・大正期のオルガンの名匠たちから生み出された三台の名器が大森さんの長年培ったテクニックによつて、当時の音色がよみがえったのだ。曲目はモーツァルトやシューベルトのクラシックの名曲や讃美歌をはじめ、「つみ」「松原とおく」「むすんでひらいて」「ふるさと」等のなつかしい唱歌も演奏された。

コンサート終了後も、参加者が大森さんと三台のオルガンを囲み、楽しいオルガン談



義が続いた。参加者は「楽しかったわ」とにこやかに話し、至福のひと時を満喫したようだった。

### 帰って来たカエル君

かどやの築山に、無骨なカエルの置物が置かれていた。

十代目当主はかどやを継がず、関東で暮らしていたが、帰郷すると弟のように親しくしていたEさんと過ごす時間が長かった。ある時、このカエルをEさんに贈ったが、残念ながらEさんは十代目より早く他界し、カエルはEさんの奥様が大切にしていってくれたそうだった。

十代目も他界し、かどやが公開された今、カエルはかどやに置くのがふさわしいと、先日奥様がかどやに持ってきてくれた。

十代目はこのカエルを見ると鳥羽に帰って来たことを実感するとEさんに話していたという。これからは、かどやに求められる皆さんがカエルを見つけて「ただいま、帰ってきたよ」と思ってもらえるような、ほっとできる場所になればと願う。

まずは、カエル君が今どこにいるか、是非見つけて、声をかけていただきたい。

### 屋敷の救世主〜縁の下の仲間たち⑤

新宿ジャズの皆さんは、毎回屋敷かどやに到着する。過去二回は、たまたま藤之郷町内会が防災訓練の一環として炊き出し訓練をしていたため、町内会のご厚意で昼食を町内会の皆さんと共に味わっていただいた。ところが今回は炊き出し日程が変更になってしまった。「ならば私が手こね寿司を作ってもてなします！」と清水館長が高らかに宣言した。

演奏家の皆さんに昼食でもおてなしするのはよいのだが、館長には三升のカン手飯を炊いて大騒動になった驚きの過去があり、館長に気合いが入るとなぜか周りには不安がよぎる。しかしそんなことなど物ともせず、毎夕食に手こね寿司を作り、練習を積んでいると話していたが、三日前に不安が頭をもたげたのか、突然婦人会等で大人数の炊き出し経験豊かなかどやボランティアのチエミちゃんにヘルプを依頼したのだ。チエミちゃんはその日、鳥羽市の清掃活動に参加する予定だったが「ええよ」と二つ返事で快諾。メニューは暑い時期なので火の通ったタコ飯に変更になったが、当日は四時半に起床し、タコ飯三十人分とひじきの煮もの、シラスたっぷりのきゅうりの酢の物等を七時半にかどやに届け、清掃活動に出発した。清掃終了後には疲れも見せず、いつもの笑顔でかどやに現れた。

演奏家の皆さんは、郷土色あふれるタコ飯に舌鼓の大喝采だったが、かどや関係者はチエミ様のバイタリティーに改めてひれ伏したのであった。

## 鳥羽高校生

### かどやで職場実習に挑む!

鳥羽高校・観光ビジネス系列の二年生が、七月六日から八日までインターンシップ・プログラムの一環として、かどやで職場実習を行った。担当の先生に連れられてやってきたのは、H君とHちゃんの二人。H君は、部活動で鳥羽の観光案内を行う「とばっ子」に所属しており、一年生の頃から数回かどやには来たことがあった。一方のHちゃんは、かどやに来るのは初めてで、二人ともやや緊張した様子で登場した。

二人の指導役は、かどや自慢の最強の事務員「三代目」(前号のコラムで紹介)だ。

二人は、館長、事務局長、三代目を前に自己紹介した後、「観光施設はきれいが基本」を実践すべく、早速館内清掃を行った。続いて、かどやの仕事内容や接客時の注意点等を、三代目が説明。また、かどやでは希望するお客様には建物の歴史や特徴等を分かりやすく説明することを大切にしているため、案内マニュアルに沿って、案内練習も行った。案内時は「はきはきと、にこやかに、お客様の目を見て話す(アイコンタクト)」を心がけるよう教えられ、事務局長をお客様に見立てた

実践練習も実施。初日には盛りだくさんのプログラムをこなして終了した。

二日目は、雨戸開けと掃除を済ませると、三代目が「かどやをよりよくするために」をテーマに、パソコンを使ってレポート作成にも取り組んだ。企業での勤務経験がある三代目は、新入社員時代の資料等も使ってテキパキと指導。館内説明は自宅で自習したのか、アイコンタクトや時には笑顔も見せて、初日とは格段の進歩を見せ、三代目を喜ばせた。

初めの二日間は、幸か不幸か来館者がなかったが、最終日は土曜日にあたったこともあり、観光客が何組か来館。絶好のチャンス到来と、実際にお客様に説明をもらった。

また、鳥羽高校生がかどやに来たくなるようなプログラムも提案してもらい、長いようであっと言う間の三日間が無事終了した。

後日、実習の感想を含めた礼状が届き、かどや関係者を喜ばせたが、受け入れ側も、将来にプラスになるような経験をしてもらえるの不安だったのだ。しかし、三代目のリードのうまさなど、二人の向上心で短期間でも素晴らしい成長を遂げたのを見ることで、かどやにとっても貴重な経験となった。

### ◆◆貸部屋の案内◆◆

かどやを有効にご活用いただくこと、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご活用ください。詳細は、かどやへ。電話〇五九九―二五八六八六

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,000円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された使用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

### かどや保存会 平成29年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

お陰さまで28年度には、340名の方々に会員登録いただきましたが、今年度も更にこの和を広げたいと思います。登録がまだの方は、是非ご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

29年度(H29/4/1～H30/3/31)の年会費(2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入ください。

- (1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。
- (2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751  
百五銀行 普通 かどや保存会 801-460713